

『アフリカの奇跡』と言われる国ルワンダからお届け

ルワンダコーヒー通信 Vol.5

アフリカ大陸中央に位置する小国ルワンダ。カップオブエクセレンスも開催され、今コーヒー界でも急成長して世界から注目を集めるルワンダコーヒーの魅力を余すところ無くご紹介します。

今年の気候は遅れてる？

チェリーの完熟を促進する合図になっています。昨年10-12月の雨季がズレたために今年の気候は少しずつズレており、それに伴って収穫も今年は2ヶ月ズレ込んで最近始まる所が多いようです。農家の収入も気候によって左右するので、コーヒー栽培は大変です。

ルワンダは現在ちょうど1年の中で、2回ある内の最初の**小雨季の真ん中**です。この雨季がコーヒー



ルワンダコーヒー農家の生活

「**コーヒー農家の人っていつもどんな生活してるの？**」

そんな疑問に今は答えてみたいと思います。

●**農家の収入はどれくらいなの？**

ルワンダでは毎年収穫期前にチェリーの最低買取価格が政府により決められます。これは農家の生活を左右する重要事項です。今年は最低1kg150ルワンダフラン (RWF) で取引されます。平均的なルワンダ農家のツリー本数は180本、1本当たりの収量は3kg程度ですので、単純計算：150RWF×180本×3=81,000RWFが平均年収と推測できます。これを1日換算すると**約220RWF**、日本円にして**1日約¥40程度**。これは国連が定める貧困層の定義となるライン以下で、いかにコーヒー農家の生活水準が厳しいものか、分かります。

●**どんな食事をしているの？**

実は、農家さんは収入が無くても食べ物にはほとんど困りません。「どうして？」と思われる方もいるかも知れませんが、コーヒー農家はコーヒーだけを植えてるところは少なく、たいてい自給自足ができるように違う作物を植える習慣があるからです。コーヒー栽培にも適したマメ科の植物や、食用バナナが所狭しとコーヒー農園の側に栽培することも普通です。だから、必然的に食事も**”バナナ””マメ””トウモロコシ””キャッサバ”等の煮込み**。そして**ほぼ毎食同じ!** 味付けも素材の味+塩だけなので薄め。日本人が食べたらずくに飽きてしまうかもしれませんが農家はこれで元気に朝から仕事です!!

●**どんな家に暮らしているの？**

ルワンダの平均的な農家は10人前後の家族構成です。コーヒー農家は比較的農家でも収入が高い方なので、きちんとした家に住んでいるとは言いがたいです。



左の写真の1枚目は**土壁で作られた家**で、囲いは木の枝や葉で作られています。雨風をしのぐ機能はありますが、衛生面が心配。2枚目は元気いっぱいの子供達。ルワンダでは**子供は家事の手伝いを当たり前のようにやります**。水汲みから兄弟のお守りまでへっちゃら。コーヒー栽培をする両親を支える縁の下の力持ちです。



(左) 伝統的なルワンダ料理で、キャッサバとマメをそのまま煮込む。(右) 典型的な農園。手前にマメ、奥にバナナの木が植えられている。

●**どんな服で作業する？**

結構ラフかと思いきや、**意外にカッコリ!** 伝統布である**”チテンゲ”**を着る女性や男性もYシャツを着る人が多い。コーヒーへの畏敬の念？

ルワンダ
まめ知識

～ルワンダでは4月は虐殺追悼週間～
22年前の1994年4月7日から約100日間続いた尊い百万人の命が亡くなった大虐殺。それを偲んで、毎年4月7日から1週間は全国民が午後は集会のため休業となります。

■編集者情報：セパール(Coffee Exporters and Processors Association of Rwanda) ルワンダの輸出業者とコーヒー加工業者の組合。肥料の分配や国内外の展示会でのルワンダコーヒーの紹介等を事業として行なっている。来日経験のあるピエール氏が代表を務めています。

■連絡先：rwanda.coffee.japan@gmail.com ■URL：www.ceparwanda.org